

地域産業木工・漆産業による形成・活性化活動

奥久慈うるしの郷づくり準備委員会* 寺門 秀人**

1. はじめに

茨城県は全国第2位の漆産出県であり、その漆は主に県北エリアの奥久慈地域で生産されている。その漆は「奥久慈漆」と呼ばれ、透明性、光沢度、肉持ち、塗り易さなどで高い評価を得ている良質なものである。しかし、茨城県は漆産出地でありながら、漆工芸産業を保有しないところである。遠い過去には、漆塗の里などが存在した経緯があるが、漆生産が主な産業であった。

しかし、その産業も時代の流れと共に衰退が進み、現在では従事者の高齢化や後継者不足の問題が進行し深刻な問題となっている。



奥久慈の漆畑



奥久慈漆

2. 課題

- ・漆掻き後継者及び生産量の確保と生産環境の改善。
- ・漆製品の作りを含めた地域産業システムの構築。

3. 目的

漆生産者と奥久慈地域を活動拠点とした漆工芸作家、木工関連の製造業者のパイプ作りを行い、地域の活力を活性化し、原材料生産から、物品生産、市場へと、川上から川下までの産業の流れを構築し、「文化」及び「産業」を両立しながら、地産地消型の一貫した産地形成を目指す。

<長期的な目的>

奥久慈が漆を軸として人の集う場所・郷になること。

<短中期的な目的>

- ・活動組織の設置とその基盤作り
- ・生産製造の基盤作り。
- ・奥久慈漆の物作りの発起。
- ・漆及び物品のPR・普及活動。
- ・消費者及び若い人材の誘致及び育成活動。
- ・人材受入れのための受け皿作り。

4. H19年度の活動内容

漆生産者と物品生産者からなる活動組織を設置した。

○名称

「奥久慈うるしの郷づくり準備委員会」

○メンバー

漆生産組合、物品生産者、市町村

○活動内容

- ・検討会（全7回）

地域産業構築に向けた課題抽出

- ・ワークショップ
漆掻き講習会、漆精製講習会
- ・人材確保活動
- ・普及PR活動



準備委員会メンバー



漆掻き講習会の風景



漆精製講習会の風景

5. 今後の活動

- ・PR・普及活動の本格化。
- ・人材確保。
- ・後継者育成（漆生産と物品生産）とそのモデルケース作り。
- ・産業システムの検討とその体系化。

※本活動は、財団法人グリーンふるさと振興機構企業化支援研究会事業の一環で運営されています。